

ベトナムにおける コロナによるフードバリューチェーン への影響



JICAベトナム事務所
室岡 直道

お話しすること

1. ベトナムにおけるコロナウイルスの状況
2. ベトナム政府の経済対策
3. コロナウイルスによる生産、流通、消費への影響と対応（プロジェクトの現場調査から）
4. Withコロナのベトナム農業の可能性（見通し）

1. ベトナムのコロナウイルスの状況(1)

(1) 感染者数

- 陽性事例は計418件、死者は0件。
- 市中感染は4月24日から99日の間ゼロ。7月25日に新たに発生。

(2) 感染対策

- 水際対策: 1月末、国内感染者がわずか6人の段階で中国経由の入国者を制限。3月22日、すべての外国人の入国を停止。
- 社会隔離: 1月末より教育機関は休校。4月1日から3週間、全国的な社会隔離政策を実施。全土にて不要不急の業務に従事する者を除き全国民の自宅待機。公共交通機関の運航停止。ただし、医療物資、食品等の必需品の生産、物流、販売は維持。
- 4月23日以降、社会隔離を段階的に緩和。海外往来を除き正常化。

(参考)

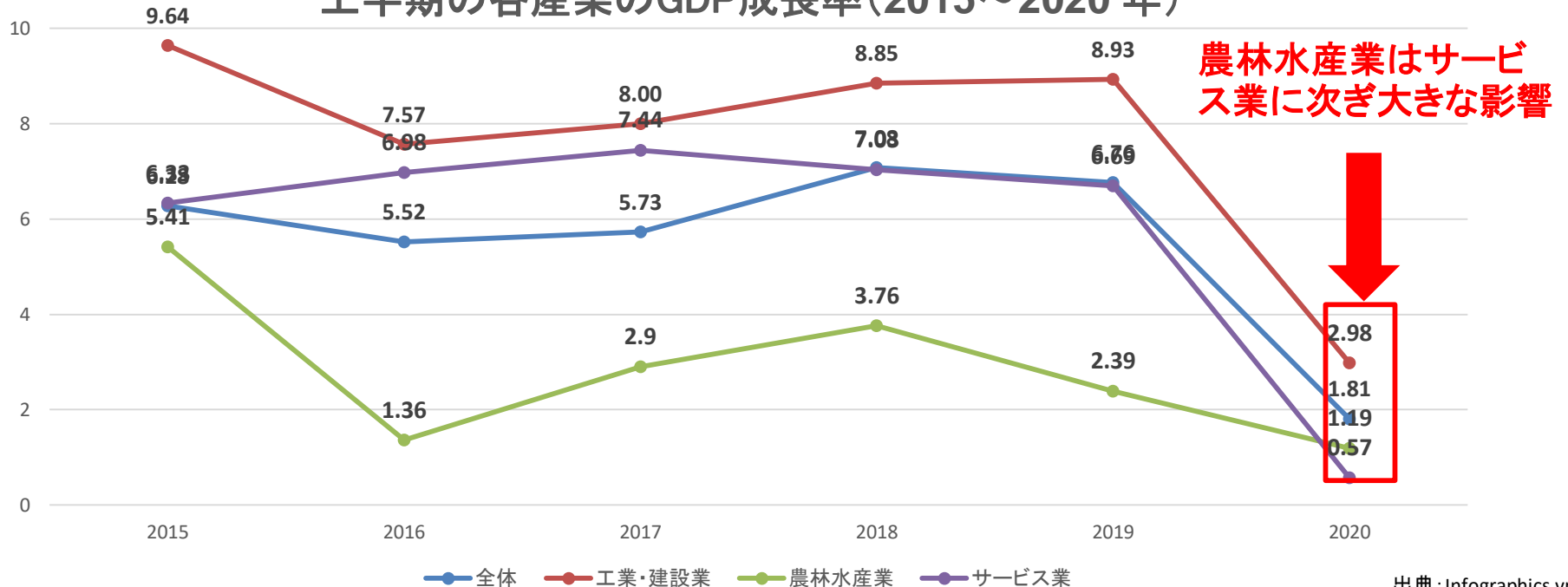
第1波: 1月23日に感染第1号確認。2月25日までに16名に増加、その後、新規感染0。

第2波: 3月6日～19日に国際航空便搭乗者による集団感染発生。

2. ベトナムのコロナウイルスの状況(2)

- **約3,080万人の労働者が負の影響**、内57.3%が休業や労働時間の減少による収入減(約89万人失業、約120万人休業)。
- **上半期のGDP成長率は前年同期比1.81%**、**輸出額は0.3%増**の1,228億ドル、**輸入額は2.8%減**の1,173億ドル、**FDIは15%減**の157億ドル。
- **外国人観光客の55.8%減**(374万人)。
- **農林水産業GDPは1.12%増**、**輸出は3.4%減**の188億ドル(畜産物19%減、野菜果物12%減、水産物9%減)。輸入は6.6%減の140億ドル。
- **消費者物価指数(CPI)伸び率は、食品類が11.2%で最大**(全体4.2%)。

上半期の各産業のGDP成長率(2015~2020年)



3. ベトナム政府の経済対策

■2020年3月4日発首相指示第11号
経済安定、回復に向けて、金融支援、行政手
続簡素化、減免税、公共事業加速化、輸出入
と生産円滑化支援等を指示。

■3月24日から米の輸出禁止、5月に全面解除
⇒上半期輸出量は前年同期比5.6%増の354
万トン、輸出高は19.3%増の17億ドル。

■中国の買付減、国境貿易の検疫強化による
果物・野菜の輸出大幅減
⇒対疫強化、検疫所追加、通関時間延長等。

■2025年まで農地使用の免税延長を承認。

■社会政策銀行による雇用主向け無利子融資。



4. 生産、流通、消費への影響と対応～現場調査から(1)～

「北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト」 (2016-2021)

ベトナム北部地域(対象2市11省)の対象グループ(協同組合、農業法人)において、GAPに基づく安全作物(安全野菜)栽培を振興。

- ①「安全作物の生産管理」⇒ GAPに基づいた栽培・生産
- ②「サプライチェーンの構築」⇒ 市場アクセス・開拓、契約農業
- ③「意識啓発」⇒ 生産者と購買者(消費者や卸・小売業者などのトレーダー)の安全作物生産と食の安全にかかる意識向上

- プロジェクトに参加する生産者グループの実態調査
- ハノイ周辺省の20の生産者グループを対象
- 調査時期は2020年2月末から3月中旬
- コロナウィルスによる影響を聞き取り
- コロナ禍でも生産・販売を継続

5. 生産、流通、消費への影響と対応～現場調査から(2)～

【影響】

- 学校/社員食堂向け販売量減
- 転売による価格低下、輸送コスト増
- 中国や他地域からの野菜流入制限⇒野菜価格高騰
- スーパーでの野菜販売量増
- 種苗や農業投入財の調達に支障

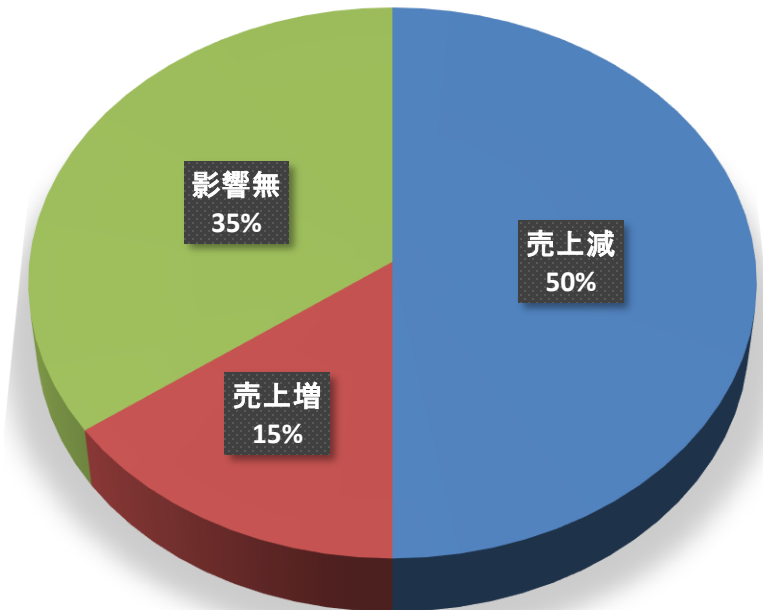
【対応】

- 代替販売チャネルでの転売(一般市場、スーパー、消費者への直売等)
- 栽培品目・計画の見直し、縮小、出荷調整
 - ・葉物やハーブ類から、日持ちのする根菜や果菜などに栽培品目を見直し
 - ・保存設備等を活用した出荷時期調整

【今後】

- SNS等による情報発信⇒プロモーション、顧客認知度向上
- オンライン販売⇒消費者からの注文を直接受け付ける仕組み強化
- デリバリー系小売業者との連携

対象20生産者グループの売上への影響



【売上減の主な要因】
販売量の減少(8)
価格の低下(3)
輸送コスト上昇(1)

出典:プロジェクトによる聞き取り

6. 生産・流通・市場の変化、影響と対応

【消費者の変化】

- 外食を控え**家庭消費、備蓄傾向**。
- **健康志向**の高まり。健康食品やビタミンを多く含む青果物の販売増。

【市場・流通の変化】

- 学校給食や食堂等既存販売先の一時休止⇒代替販売チャネルへ。
- **SNS等 (facebook, zalo)**を活用した消費者への直接販売。
- 輸出規制、国境検疫の強化による輸出減。中国産野菜輸入の減少 ⇒ **一般市場(ウェットマーケット)の販売増**。

【生産の変化】

- 農業投入財へのアクセス制限 ⇒ **年間生産計画の見直し**。

7. Withコロナのベトナム農業の可能性(見通し)

- **輸出市場の多様化** ⇒ 中国頼みからの脱却
 - ・ASEAN、日本、韓国、欧米等の国際市場への浸透強化。
 - ・CPTPP、EVFTAによる優遇関税の適用による機会。
 - ・Global GAPなどの安全認証、トレーサビリティ、原産地の証明、梱包設備、ラベル表示等。
- **加工技術の導入・促進** ⇒ Withコロナの農産業回復に向け注目
 - ・農業加工国として2030年までにトップ10入りすることを目標。
- **ハイテク農業の推進** ⇒ デジタル技術等の新技術の導入
 - ・品質、付加価値の向上。
 - ・フードバリューチェーンの変化(農業農村開発省の強い関心)。
- **脆弱性への対応** ⇒ アフリカ豚コレラ、塩水遡上/干ばつ被害(メコンデルタ、中部高原等)。